

小田原短期大学のSDGsの取り組み



SDGsとは…

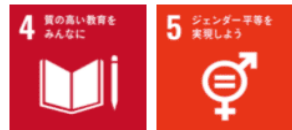
SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





女性と教職の意欲の両立者・家賃士を育成する。
大学案内はこちら



[詳しくはこちら](#)



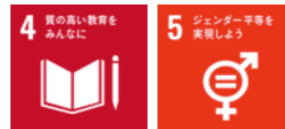
作品リリースを通じた障害のあるアーティストとの出会いを大切にしています。



[詳しくはこちら](#)



実践力を養うため、実体験を通じた学びを提供しています。



[詳しくはこちら](#)



乳幼児研究所による幼児教室を行っています。



[詳しくはこちら](#)



学生・教職員全員にステンレスボトルを配布いたしました。



[詳しくはこちら](#)



薬物やアルコール依存についての啓発と禁煙教育への活動に取り組んでいます。



[詳しくはこちら](#)



会議のペーパーレス化や図書館のリサイクル資料の提供に取り組んでいます。



[詳しくはこちら](#)



女性活躍推進優良企業(ゴールドステージ)に認定されました。



[詳しくはこちら](#)



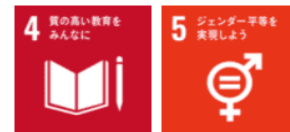
小田原短期大学では地域の環境美化活動に取り組んでいます。



[詳しくはこちら](#)



学生が考えた食育プログラムを実践しています。



[詳しくはこちら](#)



「こども食堂」にボランティアとして参加しています。



[詳しくはこちら](#)



おだわら SDGs パートナーに登録しています



[詳しくはこちら](#)



おだわら SDGs デイ 2022 に小田原短期大学がブースを出展しました。



[詳しくはこちら](#)

女性リーダーの育成に取り組んでいます。



本学に在籍する女子学生が、家庭の経済状況に関わらず質の高い教育が受けられるよう、経済的支援をしています。2年生に向けては、本学独自の給付型奨学金「手塚誠育英基金」を提供しています。また、入学時の特待生試験により、のびしろと意欲のある高校生を毎年20名程度選抜し、2年間に亘り授業料の一部を免除しています。女性が生涯安定した仕事につき、専門職として自立できるよう、食物栄養学科では栄養士と栄養教諭を、保育学科では保育士と幼稚園教諭を養成しています。その成果として、卒業時に資格を生かして就職する学生は2021年度データで食物栄養学科77.9%、保育学科89.4%でした。本学独自科目の「おだたん人間成長講座」において、建学の精神の学長講話の中で、現代女性のリーダーシップについて学生に話しています。

2年間で「保育士資格」と「幼稚園教諭二種免許」のダブル取得を目指して学習します。

 保育学科 | 2年制 |



専門知識と技術を繰り返し学ぶ独自のカリキュラムで「調理に強い栄養士」を2年間で目指します。

 食物栄養学科 | 2年制 |



障害のあるアーティストとの繋がりを大切にしています。



本学ではリース作品を通して障害のあるアーティストとの繋がりを大切にしています。小田原市にある特定非営利法人アール・ド・ヴィーヴルさん所属のアーティストのリース作品を学長室に飾っています。3か月ごとに作品を入れ替え、豊かな芸術作品とその背後にある物語やアール・ド・ヴィーヴルさんの世界観を、学長室を訪れる皆さんと共有しています。アール・ド・ヴィーヴルは小田原市にあるNPO法人で、障害のある方たちの表現活動の場を提供しています。アール・ド・ヴィーヴルはフランス語で「自分らしく生きること」という意味だそうです。小田原短期大学では、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進し、インクルーシブな社会を目指しています。



実体験を通した質の高い学びを提供しています。



本学では『おだたんひろば』という活動を行っています。学校の体育館で 0～2 歳児の子どもと保護者の方と遊具などを使いながら遊ぶプログラムです。子どもたちと一緒に遊ぶだけではなく、保護者の方とお話できる機会が多いのも本学の魅力です。2021 年度も、感染対策を徹底した上で、完全予約制で実施しました。座学で学んだことを実際に体験することで、保育者としてのやりがいや責任をより深く学ぶことができます。受け身の授業だけではなく、学生が主体的に学べる環境を提供しています。



乳幼児研究所による幼児教室を行っています。



小田原短期大学の乳幼児研究所による幼児教室「おだたんくらぶ」は平成27年に立ち上げた“遊びを中心とした親子のための活動”です。小田原市の2歳児をもつ親子を対象に入園前の子どもの家庭から社会への移行期の教育機能を担っています。毎回のプログラムは教員のピアノ演奏や歌、季節に合わせた内容で、毎年6回開催しています。参加した保護者からは「親子で一緒に楽しめた」や「普段の遊びの参考になった」等、高い評価を受けています。ここでの表現遊びは、保育現場での実践や研究、参加学生の学びに繋がっています。



学生・教職員全員にステンレスボトルを配布しました。



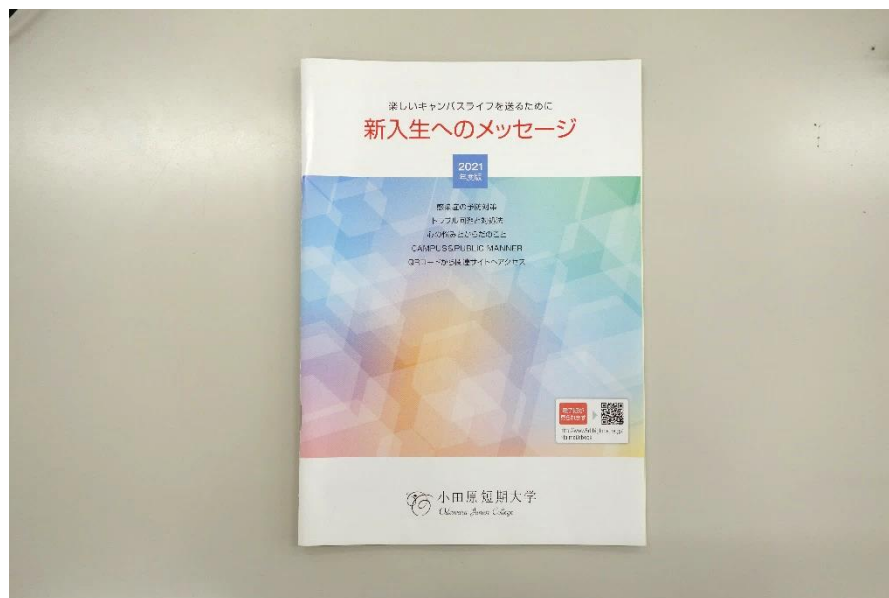
環境省の資料によると、1964年～2014年の50年間で、世界のプラスチック生産量は20倍以上に急増しており、毎年少なくとも800万トンものプラスチックが海に流れ出てしまっているようです。「海のプラスチックごみの量は2050年には魚の量を上回る」と言われているほど、海洋ごみ問題が深刻化している中、プラスチックごみの削減に向けて、本学では学生、教職員全員へステンレスボトル(マイボトル)を配布しました。また、同窓会より寄贈いただいたウォーターサーバーを学内に2ヶ所設置し、学生、教職員がいつでもキレイな水を飲めるような環境を整えています。



薬物やアルコール依存についての啓発と禁煙教育への活動に取り組んでいます。



毎年4月に行う学生オリエンテーションで啓発冊子を配布し、全学生に向けて『生命と健康』の項目にある「喫煙と健康—迷惑な行為」「飲酒と健康—危険な—気飲み」「厳禁！薬物乱用」を丁寧に説明して意識を高める支援をしています。禁煙教育については、本学では10年以上前から敷地内禁煙を徹底することで、副流煙による健康被害を防ぎ、学生が喫煙習慣に触れないよう配慮しています。学生はもちろん、社会人学生を含め20歳となった在对学生に対しても、通学路、実習中や行事の際の飲酒、喫煙を禁止しています。「学生規則」に明記し、学生便覧に掲載するとともに、4月の学生オリエンテーションや年度途中の実習指導の他、適時書面で指導を繰り返しています。



ペーパーレス化や図書館のリサイクル資料の提供に取り組んでいます。



本学では、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減するため、会議資料のペーパー配布をやめるよう呼び掛けています。現在では、ほとんどの会議がペーパーレス化できています。引き続き、天然資源を持続的に管理し、効率よく使えるよう努めてまいります。また、図書館では、随時リサイクル資料を学生、教職員、来館者へ提供しています。資源を再利用し、無駄をなくして余計な資源を使わないことを実現することで、循環型社会の形成を目指しています。今後は、利便性を考慮した上で、置換できる図書資料については、紙媒体の資料からデータベース等の電子情報への移行を検討しています。



女性活躍推進優良企業(ゴールドステージ)に認定されました。



この度、小田原短期大学が「2020年度 小田原市女性活躍推進優良企業認定制度(小田原Lエール)」のゴールドステージに認定されました。令和2年よりスタートしたこちらの制度は、女性はその個性と能力を十分に発揮し、自身のライフステージやスタイルに応じて活躍できるよう配慮した職場環境設備に取り組んでいる企業を、一定の基準に基づき認定するものです。本学では、女性が生涯安定した仕事につ

き、専門職として自立できるよう、食物栄養学科では栄養士と栄養教諭を、保育学科では保育士と幼稚園教諭を養成しています。



小田原Lエール
女性活躍推進優良企業

地域の環境美化活動に取り組んでいます。



小田原短期大学の乳幼児研究所では、「もったいない活動」を行っています。神奈川県県西地域大学連携事業「乳幼児から始める未病に関するアプローチ～食育と保育を通じた地方創生～」の事業で、小田原市教育委員会と環境政策課の協力を得て「元気に遊んで健やかに育つ！まるごと・もったいない」というリーフレットを発行しました。この中で、保育学科は幼児向けの環境教育について、食物栄養学科は残り物でつくるレシピについて、を掲載しています。このリーフレットでは、本学教員が作詞作曲した「まるごと元気のうた」も紹介しています。学生による環境活動として、本学の建学の精神にそった独自科目である「おだたん人間成長講座」の地域活動マネジメントコースの学生が地元で活動しているボランティアグループ「むつみ会」と一緒に近隣の清掃活動を行っています。当日はむつみ会の方々から活動の注意事項を教えていただき、竹ぼうきを使って本学の周囲を掃除しながら、一緒に活動し、会話も楽しみました。



学生が考えた食育プログラムを実践しています。



本学では子どもや保護者と一緒に調理し、地産地消や食事のバランスについて考え、食事の大切さを伝える『おだたん食育村』という活動を行っています。小田原短期大学食物栄養学科が主催し、2007年から毎年8月と3月の年2回開催しているイベントです。地域の子どもたちや住民の方々にお越しいただき、神奈川県の地場産業農作物をたっぷり使用した料理教室を開いています。2021年度は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、動画配信という形で実施しました。本学ではこのような実践的な教育を提供することで、社会に貢献できる人材を育成しています。



「こども食堂」にボランティアとして参加しています。



現在、世界では7億を超える人たちが極度の貧困の中で暮らしていると言われています。この数字は世界の人口のおよそ10%にあたり、10人に一人が貧困という事になります。本学の食物栄養学科の学生は、栄養士になるために学んでいる知識と技術を地域社会に還元するために、小田原市の「こども食堂」にボランティアとして参加しています。2019年度は4月22日に小田原市青少年育成課に学内説明会を開催していただきました。その後、学生たちは上府中地区まちづくり委員会が実施している「お結びころりん」で活動しました。今後も食に携わる学生を育成する教育機関として、近隣地域をはじめ、社会に貢献していきます。



おだわらSDGsパートナーに登録しています。



本学は、小田原が目指す「持続可能な地域社会モデル」の確立を目指し、おだわらSDGsパートナーに登録をしています。「人間の未来を考える・「共」の再生を考える・ライフサイクルを考える」の3つの視点を大切にしたおだわらSDGsにおいて、本学ではSDGsの目指すゴール4.質の高い教育をみんなに、5.ジェンダー平等を実現しように当たる、女性リーダーの育成に力を入れています。

おだわらSDGsパートナー制度について

SDGs(持続可能な開発目標)の達成と持続可能な社会の実現に向け、小田原市と共に取り組む企業、大学、団体等を「おだわらSDGsパートナー」として認定。多様なステークホルダーが持つ強みと知見を活かし、SDGs理念の普及と取組の推進を図る。



おだわらSDGsデイ2022にブースを出展しました。

12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさを
守ろう



国連サミットでSDGsが採択された9月25日（GLOBAL GOALS DAY）を含む毎年9月末の約1週間は、世界中でSDGsを喚起するイベントが開催されます。小田原市でも、みんなでSDGsに触れ、アクションに繋げるための「おだわらSDGsデイ2022」が開催され、小田原短期大学も参加しました。本学は体験ブースとして『牛乳パックを使った楽しい工作～廃材を利用した工作教室～』を実施しました。

